



▲ロサンゼルスオリンピックでは金メダルを獲得(写真:フォート・キシモト)



▲ロサンゼルスオリンピック柔道無差別級の決勝戦(写真:フォート・キシモト)

山崎区長 新春対談

日本オリンピック委員会会長 ロサンゼルスオリンピック柔道無差別級金メダリスト

山下泰裕さんを迎えて



▲スポーツが持つ力や意義、オリンピック・パラリンピック競技大会について対談



やすひろ
山下 泰裕さん

1957年熊本県生まれ。1984年ロサンゼルスオリンピックの柔道無差別級で金メダルを獲得したほか、全日本選手権9連覇や世界選手権3連覇、公式戦203連勝など、最強の柔道家として活躍。

現役引退後は、母校の東海大学や全日本柔道連盟で後進の指導にあたり、数々の名選手を育成。2013年からは、日本オリンピック委員会の理事、2017年からは常務理事・選手強化本部長の要職を歴任した。

現在は、日本オリンピック委員会会長として、オリンピック・パラリンピックにかかわるさまざまな活動に尽力・活躍している。

人々の記憶に残るフェアプレー

司会 本日は1984年ロサンゼルスオリンピックの柔道無差別級の金メダリストであり、日本オリンピック委員会の会長を務められている山下泰裕会長をお招きしました。よろしくお願ひいたします。

山下泰裕会長(以下、山下) よろしくお願ひいたします。まず柔道の競技者・指導者としての話をお伺いしたいのですが、ロサンゼルスオリ

ピックでの金メダルは非常に印象深く残っているかと思いが、当時の思い出といえほどのようなものがいま思い浮かびますか。

山下 私にとってロサンゼルスオリンピックは3度目のチャンスで、初めて出場したオリンピックでした。最後のチャンスだと思っていたので、やり尽くしたかったんですが、2回戦で右足のふくらはぎを肉離れして、それから足を引けずりながらの苦しい戦いになりました。準決勝では逆転で勝ち、決勝でエジ

プトのラシュワン選手と戦いました。最終的にラシュワン選手がかけた技を私が外し、抑え込んで勝ったんですけど、このときにラシュワン選手は、私のけがをした足を攻めない戦い方が非常に清いと思いました。後から聞いた話ですが、試合終了後、ラシュワン選手を世界のマスコミが囲んで、「あなたの相手の日本人は、けがをしたのを引きずっていたんじゃないか、あの足を蹴って引きずりませば、あなたが逆に一番高いところに登れたのではないかと、なぜそうしなかったのか」と、彼の戦い方に疑問をもっていた。ただ彼はそこが格好良いんです。「私はアラブ人だ。柔道家だ。アラブ人として柔道家としての誇りがある。山下とそんな卑怯な戦いできない」と言ったら、疑問に思っていた人たちが拍手を送って納めてくれた。表彰式では私の足を氣遣って、表彰台に登るときも降りるときも手をかしたくれた。その姿も素晴らしいというところで、彼はその年のユネスコのフェアプレー賞をもらいました。あともう一つ言いますと、中学2年生の時の作文で、将来柔道選手としてオリンピックへ出場して、メインポールに日の丸を仰ぎ見ながら君が代を聞きたいって書いていた。実際に日の丸を仰ぎ見ながら君が代を聞いたときは、ああ、俺は世界で一番幸せな男なんじゃないかな、こう思いました。

司会 区長はその当時の思い出や印象はございますか。
区長 やっぱりけがをしちゃったので、メダルは無理だろうという思いでテレビを見ていました。ところが逆転勝利をした。これは山下選手の強さ、偉大さ

スポーツの普及、そして多様な共生社会の実現へ
司会 具体的に日本オリンピック委員会の活動とはどのようなことをされているのですか。
山下 一つ目は、オリンピックに日本代表選手を派遣することや、オリンピックやアジア大会

区長 スポーツをやっていくと、ただ実施すればいいというものではないんです。スポーツと離れて日常生活の中で発揮したときに本当の価値がある。大人や子ども、障害がある方などいろいろな人と交流しながら一緒にやってスポーツをしていくと、とても良いと思います。そうすると学校でのいじめも減ってくるはずですね。それから医療費も削減できるはずですね、寝たきりではない生き生きとした人も増えてくるはずですね。そして、江東区が一つのモデルケースとして、ほかのまちも参考にしたい、人々が生き生きと明るく、そしてフェアに、思いやりがあふれ、そしてそこにスポーツが何らかの形で関わっていただけら良いと思っています。ぜひ区長にがんばっていただきたいと思っています。

区長 江東区では、子どもたちにスポーツをする場を提供するため、ファミリースポーツチャレンジというのをやっています。子どもたちと親御さんとみんなが陸上競技場に集まってくるようなスポーツを体験できるようなしています。あとは障害者スポーツやフェスタ、これは障害者の方々と健常者が一緒にプレーをして、障害者スポーツの面白さを皆さんに感じ取ってもらっています。他にも、江東区は川や海が身近にあるので、私が区長になってからはセーリング部も作りました。それからカヌーも広めようということで、江東区の中学生のカヌー部を作りました。それがなんと全日本の中学校大会で優勝するまでになったんです。

区長 ありがとうございます。

山下 それはすごいですね。区長 本当にうれいんです。その延長線上で、今度の東京2020大会にパラカヌーで出場する予定の、瀬立モニカ選手。我々が応援している今一番の星なんです。この選手は深川第一中学校の卒業生です。また、深川第三中学校の卒業生のケンブリッジ飛鳥選手。この選手はリオで陸上のリレーで銀メダルをとりましたよね。今はまだ日本代表

だけに招致すること。二つ目は、オリンピックを目指す選手の支援や育成、また選手強化に関する指導者スタッフの研修もやっています。そして三つ目ですが、さまざまな事業を通してオリンピックの精神を広げて伝えていくことです。オリンピックが目指すものは、国や宗教、人種に関わらず、さまざまな人たちが同じルールで交流することによって、多様性や相互理解、友情を育んでいくこと。ですからスポーツっていうのは、お互いがお互いを理解し合う相互理解と、戦う相手に対する尊敬のうえで成り立ちます。また、障害者スポーツは、パラリンピックだけではなく、聴覚障害者のデフリンピック、知的障害者のスペシャルオリンピックなどもあります。そういった垣根を越えて、健常者と障害者が交流して、自分たちと違う人たちと理解し合い、共生社会の実現へとつながっていく。スポーツは若い人だけのものじゃないんです。今、高齢社会ですけれども、大事な健康寿命です。健康寿命を延ばすためには、健康寿命が伸びないようです。これを5年後には65%にするのを目指しています。そのためにも、区民の誰もがいつでもどこでも気軽にスポーツができるような施設を作ること、あるいは仕掛けをするなどを今取り組んでいます。

区長 さまざまなスポーツの体験その先に選手輩出も
区長 江東区では、子どもたちにスポーツをする場を提供するため、ファミリースポーツチャレンジというのをやっています。子どもたちと親御さんとみんなが陸上競技場に集まってくるようなスポーツを体験できるようなしています。あとは障害者スポーツやフェスタ、これは障害者の方々と健常者が一緒にプレーをして、障害者スポーツの面白さを皆さんに感じ取ってもらっています。他にも、江東区は川や海が身近にあるので、私が区長になってからはセーリング部も作りました。それからカヌーも広めようということで、江東区の中学生のカヌー部を作りました。それがなんと全日本の中学校大会で優勝するまでになったんです。

区長 ありがとうございます。

山下 1年延期になりましたが、さまざまな関係者のご理解です。選手村をはじめいろんな競技施設も完成している。今ここで一番の課題はコロナ対策。選手、関係者にとって安心安全な大会を開催するために、国や都、組織委員会、そこにオリンピック委員会もパラリンピック委員会等も関わって最後の段階にきています。ですから、これから丁寧計画通りに準備して実施していきます。これは日本人の大きな強みなんです。1年延期が決定する前、国際オリンピック委員会から、国際オリンピック委員会から、過去にこんなによく準備されて、こんなにすべてが揃っているオリンピックは見たことがない、と何度も聞きました。コロナ禍で非常に厳しい状況ですが、日本の皆さんが力を合わせて最善を尽くしていけば、世界中のアスリートが東京に集って、今年の夏は最高のパフォーマンスを発揮する大

国民皆で一生懸命応援する熱い夏に
司会 江東区としては大会に向けて選手へのサポートなどに取り組んでいると思いますが。
区長 すでにボランティアの募集や、気運醸成のさまざまなイベントをやってきました。ですから、なんとでも東京オリンピック・パラリンピックを開催し、世界中の人に来てもらい、我々国民も一生懸命応援をする、それが大事だと思います。
司会 最後に山下会長より今年の抱負をお聞かせください。
山下 オリンピック・パラリンピックまで200日余りとなりました。最後の最後まで選手達最高の準備をして、そして最高の舞台で大会に臨めるように努めていきたいと思っています。そして、それぞれの選手がプレッシャーや失敗を恐れず、自分らしく生き生きと輝きそれぞれの花を咲かせる、そういうオリンピック・パラリンピックにしたい。今年の夏は、熱い熱い熱い夏になります。日本の選手たちは自分の持っているすべてを出し切ってくれるはず。ぜひ江東区民の皆さんに、東京2020大会に色々な形で関わっていただいて、ご声援をお願いしたいと思っています。
司会 山下会長ありがとうございます。

▲令和2年10月に行われた東京アクアティクスセンター完成披露式典でのテープカットの様子

